

## 【令和2年1月】

### 地域を支える仕組みづくり

緒絶地区協議会の「新春のつどい」が開催され、中央公民館、地域包括ケア推進室の職員が話題提供を行

#### いました

令和2年1月25日（土曜日）午前10時から三日町公園事務所にて、緒絶地区協議会主催の「新春のつどい」が開催され、中央公民館の職員から「人生100年時代をどう生きるか」について、民生部社会福祉課地域包括ケア推進室の職員から「集まることの大切さ」について、それぞれ話題提供を行いました。

その後、各グループに分かれ「次年度に取り組みたいこと」について話し合いが行われました。出された意見としては、「旅行もいいよね」、「この地区でも百歳体操を取り組みたい」など活発な意見交換となり、終始笑いの絶えない「新春のつどい」になりました。

池月地域づくり委員会で「安全運転講習会」が開かれ多くの方が参加しました。

令和2年1月25日（土曜日）午前10時から池月地区公民館において「安全運転講習会」が開催され、地域住民等14名が参加しました。

この講習会が開催された経緯は、「買い物、通院」が一人では公共交通機関の利用が困難になってきている方々のニーズを受け、住民同士の「互助」による支え合いが安全に行えるよう、特定非営利活動法人移動ネットワークみやぎの協力により、実現に至りました。

第1部は、鳴子警察署交通課による「交通安全講話」を行い、第2部では移動サービスネットワークみやぎによる「支え合いによる生活支援」として接遇や運転時のマナーのほか、車いすを使用した実技を行いました。



新潟県「実家の茶の間（東区紫竹）」へ視察に行きました

令和2年1月29日（水曜日）午前11時から新潟市東区紫竹にある基幹型地域包括ケア推進モ

デルハウス「実家の茶の間 紫竹」へ視察訪問を行いました。

「実家の茶の間 紫竹」は、「空き家」を活用した一軒家で月曜日と水曜日の午前 10 時から午後 4 時までの間なら誰でも自由に利用できます。(利用料金 300 円(子どもは無料)・昼食代 300 円)

ここでは、利用者とスタッフという関係性はなく、すべての人が実家の茶の間という居場所を共有する利用者となっており、自らがそこで出来ることを見出しながら、それぞれの時間を過ごしています。

また、ここを拠点として手助けが必要な人と手助けできる人をつなぐ役割として、助け合い「お互いさま・新潟」を立ち上げ、日常生活支援の訪問活動を行うとともに、助け合いの担い手の育成にも取り組んでいます。

大崎市が目指している「支え合いの地域づくり」に向け、大変有意義な内容の視察となりました。



## 医療と介護の連携

### 令和 2 年第 9 回ふらっといしかいサロンをオープンしました

令和 2 年 1 月 9 日(木曜日)午前 10 時から大崎市図書館 2 階研修室にて、第 9 回目の「ふらっといしかいサロン」をオープンし 32 人が来所しました。

このサロンは大崎市医師会主催で行っており、地域の方々が病気や健康管理のことについて「ちょっと聞いてみたいこと」を医師や看護師等に気軽に相談できる場になっています。お立ち寄りいただいた方の中には継続的にサロンを楽しみにしている方もおり、徐々に浸透されてきた様子が見えます。

次回、2 月 22 日(土曜日)午前 10 時から、大崎市図書館にて開かれますので、是非御参加下さい。



## 松山で高齢者支援に携わる関係者間のネットワークを強化するための地域ケア会議が行われました

令和2年1月15日（水曜日）午後6時から7時45分から松山保健福祉センターにて、「松山地域ケア会議」が行われました。松山の地域・医療・介護の関係者27名が参加し、地域内の高齢者支援に携わる関係者間のネットワークを強化するため「人生の最終段階における自分自身が望む医療やケアについて考える人生会議（ACP＝アドバンス・ケア・プラン）」をテーマに「どうあるべきか」、また「地域が果たせる役割」について講話とグループワーク（カードを使ったゲーム）を行いました。

講話では、地域包括ケアや医療介護連携が重視される背景には「少子高齢化・医療費増大問題」があること、また日本の三大死因に「老衰」があることから「在宅で過ごしたい」という希望が第一位を占めていることも含め、「人生の最後をどのように過ごしたいか？」の必要性についての話があり、その後グループワークでは、「もしも、『①治療困難な病気で、②生命の危機が迫っている時、③あと半年から1年の命と言われたら・・・』のテーマ」の中「あなたは何を大切にしたいですか」をゲームを用いてみんなで考えました。

参加者の感想としては、「今まで本人の意思決定というと医療面ばかり考えていたが、『自分ごと』と置き換えると色々な事を考え、取舍選択が難しいことが分かった」や「家族でも話題にしたい・地域の人にも知らせたい」などの意見をいただきました。

今後は地域の現状や体験後の話し合いを工夫しながら、地域や医療関係者の間でも広めていければと思います。

## 令和元年度第8回自立生活支援地域ケア会議が行われました

令和2年1月21日（火曜日）午後1時から北庁舎にて第8回自立生活支援地域ケア会議が行われました。今回は「主に身体機能の回復を含めたりハビリ等」の3事例の検討していただきました。

各々が「自分のこれまでの生活習慣を見直したい・回復したい」（自助力強化）との意思のもと「友人と一緒に歩きたい」や「春先の畑仕事の為の筋力維持」や「転倒せずに両杖を使って安全に移動したい」などの支援して頂きたいことを専門職の方々からアドバイスを頂きました。

「道具」を使っての「支援」も検討内容にはありましたが、「必要な運動量が満たされているか」、「健康状態が良いか」、「個人因子は無いかな」などの別な観点からの解決策をアドバイスしていただきました。

次回、2月20日（木曜日）に開かれます。

## 大崎市医師会主催の第9回医学講座が開催されました

令和2年1月21日（火曜日）午後6時30分から大崎市図書館2階研修室にて、大崎市医師会主催による「今だから学びたい介護事業者向け医学講座」が開催され、市内の介護事業所に勤めるケアマネジャー等が56名参加しました。

今回はほなみの郷クリニック 三浦 正悦氏 が講師となり「ターミナルケア」についての講話が開催されました。【ターミナルケアとは：病気などで余命がわずかになった方に行う医療的ケアの

こと。苦痛を緩和しながら、できるだけ生活の質（QOL＝クオリティ・オブ・ライフ）を保つための医療や看護の方法】

参加された方の感想として「その人がどう生きるか、どう最後まで自分らしく生きるのかが本当のケアだと気づきました。」などと多くの感想をいただき、「自分自身だけでなく、周りにいる家族も含めてのターミナルケア」だという事にも気づいていただけました。



### 大崎市内の医療・介護関係者で多職種連携研修会が行われました

令和2年1月31日（金曜日）午後6時30分から大崎市図書館2階研修室にて、市内の医療・介護関係者の多職種連携研修会が行われ34人が参加しました。

この研修会は市内の関係者が協働とケアの質を改善にむけて共に学び、お互いから学び合い、お互いのことを学ぶことを目的とし開かれました。

研修会はロールプレイとして「退院調整場面」事例を用い、普段の職種とは違う職種になるワークを行い、それぞれ「互いの職種」の役割を振り返り、関係者の役割がわかる（相互理解）機会となりました。

今後もこのような研修会を開催していきます。医療・介護関係のみなさまぜひ自分の身近な地域で開催される際は御参加下さい。

